

コミュニティ・スクールだより




第40号

名張市教育委員会事務局発行
令和5(2023)年 10月31日

小中一貫コミュニティ・スクール 推進協議会開催！


【いま改めて考えたい、CSの意義や意図】



名張市小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会を、10月13日(金)に開催しました。前半を行政報告と講演会、後半を熟議という2部構成で実施し、行政報告では、小中一貫教育とコミュニティ・スクール(以下、CS)の名張市における現状等などについて報告しました。講演会では山口県から地域連携教育アドバイザーの木本育夫さんに講師としてお越しいただきました。木本さんからは、名張市内全小中学校がCSとなって4年目を迎えるにあたり、CSの意義や意図、学校運営協議会(以下、学運協)の役割等について、改めてお話をいただきました。

【テーマ「これからの学校と地域」】

～CSと地域学校協働活動の一体的推進～



木本さんからは、CSと地域学校協働活動という、大きな2つのテーマについて、お話をいただきました。以下、その内容の一部を紹介します。

<CSとこれまでの仕組みの違い>


法律に基づき、学運協の役割や権限が明確化されているため、**家庭や地域等が学校だけに任せることなく、学校運営の当事者として**、自立した学校と対等な立場で、継続して**学校運営に関わることができる**ことが大きな違いであり、意義となっている。

<CSの役割>

家庭や地域等が当事者として学校運営に参画し、めざすべき目標を共有し、その目標達成のための十分な協議をした上で、**学校と家庭、地域(以下、三者)が協働して取り組む**。

<CS運営のポイント>

- ・何より大切なのは三者のコミュニケーション
- ・CSは信頼関係や協働体制づくりのための制度であることを理解する
- ・学運協委員が役割を果たすためには、学校の仕組みやルールを学ぶ機会が必要
- ・家庭や地域の意見が届きやすい仕組みづくりを進める
- ・子どもたちの意見や考えを学運協に取り入れ、一緒に考える

- 
- ・CSの取組等を分かりやすく発信する
 - ・CSはあくまでも道具、大切なのは校長先生のビジョン
 - ・教職員の異動に左右されない学校と地域の関係づくりを
 - ・各学校により、子どもや地域等の現状や課題等は全く違う。各学校らしさが一番発揮できることを、できることから始める

【熟議より】…一部抜粋…

木本さんの講演を受けて、「充実した学校運営協議会にするために、大切にしなければならないことは何か」～それぞれの立場・視点から～というテーマで、3グループで熟議を行いました。出された意見の一部を紹介します。



- ・「三者が子どもの実態やめざす子ども像を共有する。」
- ・「学運協が子どもたちの思いを、さらに受け止めることができるようにする。」
- ・「三者をつなぐ役割が必要(地域学校協働活動推進員)」
- ・「自分たちが住む地域を子どもたちが好きになり、学校や地域のよさを子どもたち自身が発信できるようになることをめざす。」



- ・「無理なく継続していくことが大切。」
- ・「地域学校協働活動カリキュラム(CSカレンダー)を学運協で位置付け、常にブラッシュアップする。」



- ・「CSの取組の様子等をもっと積極的に発信する。」
- ・「地域がめざす地域の姿を、学校でも共有する。」
- ・「学運協委員が気軽に集える部屋(CSルーム)があるといい。」
- ・「三者の相互理解が基本。学校は積極的に地域に出ていき、地域と触れ合う場を作ることが大切。」
- ・「学運協委員や教職員全体の当事者意識の向上が必要。」

【木本さんからのメッセージ】



- ・「一番大切なのは、**三者のつながりをつくること**。ぜひ、懇談会のような顔と顔が見える場の設定を！」
- ・「学校は家庭や地域から、様々な支援をいただいていることを認識する。」
- ・「子どもの思いを、活動したその場で確認(聞く)して次につなげる。」
- ・「時間と場所をはっきり示して、学運協委員が来校しやすくする。」

【西山教育長からのメッセージ】



「CS4年目を迎えるにあたり、自分たちは子どもたちのために何ができ、地域とともにどのような実践ができていたのか、また学校はいかに成長できたのか、そして子どもたちの成長に繋げることができていたのか、振り返ることが重要。」

YouTube限定配信



協議会の様子はYouTubeを通じて、教職員及びCSに関わる皆様を対象として、**限定配信**します。詳細は別途、お知らせいたします。ぜひ、ご覧ください！